

現代中国語の文末助詞“了”の研究

—認識域における文末助詞“了”の意味記述の精緻化—

A Study on the Sentence-final Particle *LE* in Modern Chinese: Elaboration of Semantic Expressions of the Sentence-final Particle *LE* in Epistemic Domain

鄧 宇 陽

DENG Yuyang

Xiao and Shen (2009) defined the sentence-final particle *LE* in the epistemic domain as “emergence of epistemic content” and “think” in a broad sense. Actually, these semantic expressions are too abstract so that the Chinese beginners can’t accurately use the sentence-final particle *LE* in the epistemic domain through these semantic expressions. Several semantic expressions, such as “affirm”, “decide”, “determine” and “confirm”, which often appear in the previous researches, are some kind of elaboration of “emergence of epistemic content” and “think”. However, there are still some problems in the semantic expressions of “affirm”, “decide”, “determine” and “confirm”. This paper will elaborate cognitively on the semantic expressions of “emergence of epistemic content” and “think”, and then verify the validity of the elaborated semantic expressions with different kinds of examples.

キーワード：文末助詞“了”、意味記述、認識域、精緻化

1. はじめに

中国語学において、語尾“了”は“了1”とも呼ばれ、文末助詞“了”は“了2”とも呼ばれる(呂叔湘1999:351)。肖治野・沈家煊(2009:518-527)は、Sweetser(1990)、沈家煊(2003)を踏まえて、“了2”を「行為域」(行域)の“了2”、「認識域」(知域)の“了2”、「言語域」(言域)の“了2”という三種類に分けて、“了2”の意味研究領域において新しい研究方法を提示している。本論文は認識域の“了2”を“了2<認識>”と呼ぶことにする。本論文は、先行研究の問題点を説明した上で、認知意味論の観点から、先行研究で言及されている“了2<

認識>”の意味記述を精緻化 (elaboration) ¹するということを試みる。

2. 先行研究で言及される“了 2<認識>”の意味記述に関する精緻化

まず、肖治野・沈家煊 (2009) の問題点を説明する。

Sweetser (1990 : 11, 113-148) は、複文の意味を内容域 (real-world content domain)、認識域 (epistemic domain)、言語域 (speech-act domain) という 3つの側面から捉えることが可能であるということを提示している。初めて Sweetser (1990) の三域の観点から“了 2”の用法を検討したのは王伟 (2006) であるが、初めて三域の観点から“了 2”の意味を検討したのは肖治野・沈家煊 (2009) である。内容域の“了 2”は主に何らかの客観的な動態を示すので、肖治野・沈家煊 (2009 : 523) は“了 2”の内容域を行為域 (行域) と呼んでいる。肖治野・沈家煊 (2009 : 519) は“了 2”の行為域、認識域、言語域の意味をそれぞれ「新しい行為状態の現れ」(新行态的出现)、「新しい認識状態の現れ」(新知态的出现)、「新しい言語状態の現れ」(新言态的出现) と記述している。「新しい行為状態の現れ」とは何らかの命題的客観性を持つ動態が生じたということであり、「新しい認識状態の現れ」とは発話者の何らかの認識や意識が生じたということであり、「新しい言語状態の現れ」とは発話者の何らかの言語行為が生じたということである。肖治野・沈家煊 (2009) が提示している“了 2”の三域の意味は“了 2”の多義性の問題の解決に有効性を示している。ただし、肖治野・沈家煊 (2009) の“了 2”の三域の意味に関する意味記述には次の 4つの問題点が残されている。

第一に、“了 2”の三域の意味は「新しい行為状態/認識状態/言語状態の現れ」と記述されているが、実際には、“了 2”は必ずしも「新しい」状態を示すとは限らない。例えば、次の (1) の下線部²を考えよう。

(1) A : 那个是谁?

B : 那个是我女儿。

A : 不可能, 我看不像你女儿。

B : 不会吧?让我再看看.....哎呀!没错了!那个是我女儿了!

(<https://tieba.baidu.com/p/6209479319> 閲覧日:2019年7月29日)

¹ 認知意味論によれば、精緻化 (elaboration) とはよりスキーマ的な意味や抽象的な意味を具体化 (instantiation) する過程である (靛山・深田 2003 : 167, Langacker 2008 : 21, 215)。例えば、「[A]、[B]をそれぞれ多義語を持つ抽象度の異なる 2つの確立した意味とした場合」、[A]は[B]に対してスキーマ的であり、[B]は[A]を精緻化したものであるとしたら、「[B]は[A]と矛盾しないが、[B]の意味記述は[A]の意味記述よりも詳細である」(靛山・深田 2003 : 167)。

² 1つの例文において、1か所を際立たせるには下線だけを用い、2か所を際立たせるには下線と二重下線を同時に用いる。

(A: あの人是谁?)

(B: あれは私の娘だ。)

(A: 嘘、あなたの娘に似ていないし。)

(B: 何? ちょっと確かめさせて.....ほら! 間違いないわよ!あれは確かに私の娘だよ!)

(1) の“那个是我女儿”(あれは私の娘だ)という内容は、命題的客観性を持つ動態が生じたということを示さず、発話者の何らかの判断や認識か、または何らかの発話や言語行為が生じたということを示すので、肖治野・沈家煊(2009: 519)が述べている「認識状態」と「言語状態」として扱うべきである。また、“那个是我女儿”(あれは私の娘だ)という内容は2回現れている。もし、「認識状態」または「言語状態」として扱うとすれば、2回目に現れている“那个是我女儿”(あれは私の娘だ)という判断または発話とははや新しく現れたものではなく、「古い認識状態」または「古い言語状態」になったということが分かる。通常“了2”は未知情報または新情報を伝える機能があるとされる一方³、既知情報または旧情報を伝える機能もあるという指摘も見られる⁴。したがって、「新しい」という意味記述の妥当性に疑問が生じる。

第二に、「新しい行為状態/認識状態/言語状態の現れ」という意味記述は大まかであり(陈前瑞・吴继章 2019: 58)、非中国語母語話者にとって実用的な意味記述ではない。次の(2)を考えよう。

(2) a. 昨天收到妈妈的信, ?我很高兴了。 (赵立江 1997: 114)

(昨日母の手紙が届いて、?とても嬉しかった。)

b. 昨天收到妈妈的信, 我很高兴。 (赵立江 1997: 115)

(昨日母の手紙が届いて、とても嬉しかった。)

例えば、日本人学生が「昨日母の手紙が届いて、とても嬉しかった」という日本語の文を中国語に訳す場合、もし「とても嬉しかった」という情報を「新しい行為状態の現れ」または「新しい認識状態の現れ」として捉えたら、(2a)に訳してしまう可能性がある。しかし、赵立江(1997)が指摘するように、別の発話場面や文脈が付与されなければ、(2a)は(2b)より容認度が低い文として捉えられやすい。そのため、「新しい行為状態/認識状態/

³ 詳細については、Chao (1948, 1968)、朱德熙 (1982)、竟成 (1993)、刘勋宁 (1998)、刘月华他 (2001)、王学群 (2003, 2008)、谭春健 (2004)、肖治野・沈家煊 (2009)、杉村 (2009)、金立鑫・邵菁 (2010)、張文青 (2012)、周小兵・欧阳丹 (2014)、陈前瑞・胡亚 (2016)、黄瓚辉 (2016)などを参照のこと。

⁴ 詳細については、郭穎侠 (2003)、劉綺紋 (2006)、刘娅琼 (2016)、饶宏泉 (2018)を参照のこと。

言語状態の現れ」という意味記述は大まかであり、非中国語母語話者にとって実用的な意味記述ではない。また、次の(3)も考えよう。

- (3) a. 刚才我在看电视, 现在我在洗衣服了。
(さっき私はテレビを見ていたが、今は服を洗っている。)
- b. 刚才我在看电视, 现在我在洗衣服。
(さっき私はテレビを見ていたが、今は服を洗っている。)

「さっき私はテレビを見ていた」という情報と「今は服を洗っている」という情報を比較すれば分かるように、後者は「新しい行為状態の現れ」と捉えられる。後者を「新しい行為状態の現れ」と捉えるとしても、(3a)と(3b)が示すように、後者に“了2”を付与してもしなくても構わない。なぜならば、ある意味で、(3)における“在”(ている)という機能語も「新しい行為状態の現れ」を示すからである。特に、王巍(2010:72)から明らかのように、もし「さっき私はテレビを見ていた」という情報が付与されなければ、(3a)の“现在我在洗衣服了”(今は服を洗っている)という“了2”構文は不自然になる。要するに、「新しい行為状態/認識状態/言語状態の現れ」という意味記述は大まかであり、非中国語母語話者の“了2”の習得に役立たないと考えられる。

第三に、肖治野・沈家焯(2009:522-523)は“我想[P]⁵了”(私は[P]を考えた)という意味記述で「新しい認識状態の現れ」という意味記述を再解釈しているが、“我想[P]了”も大まかな意味記述であり、非中国語母語話者にとって実用的な意味記述ではない。肖治野・沈家焯(2009:522-523)が述べている“我想[P]了”(私は[P]を考えた)の“想”(考えた)は、日常生活でよく用いられる具体的、狭義的な概念でなく、発話者の各種類の精神活動を包括する抽象的、広義的な概念である。例えば、“想”は「考える」、「思う」、「推測する」、「判断する」、「評価する」などの全種類の精神活動・「認識状態」のことを指すのである。しかし、通常の会話であれば、どのような会話文でも発話者の広義的な“想”が働いた上で成り立つものである。つまり、どのような会話文でも広義的な“想”が指示する意味を持つということである。これは、広義的な“想”が指示する意味は“了2”特有の意味ではなく、通常の会話文ならどのような言語形式でも持つべき意味であるということの意味する。こうして、“想”という広義的な概念で“了2”の意味を再記述する必要性に疑問が生じる。

第四に、循環定義という問題点も目立つ。肖治野・沈家焯(2009:522-523)は“我想[P]了”(私は[P]を考えた)という意味記述で「新しい認識状態の現れ」という意味記述を再解釈しているが、“我想[P]了”という意味記述自体には“了2”が含まれているので、循環定

⁵ [P]はフレーズという意味である。

義の問題を引き起こしかねない。

次に、先行研究でよく言及される「肯定」(肯定)、「決定」(決定)、「確定」(確定)、「確認」(確認)、「定着・定まった」(已成定局)などの意味記述の問題点も説明する。

先行研究から分かるように、“了2”の意味を説明するために、「変化」(変化)、「出現」(出現)、「実現」(実現)、「発生」(発生)という4つの命題的概念が用いられるほか⁶、「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」という4つのモダリティ的概念も用いられる⁷。例えば、“了2”の意味について、守屋(1995:259)は「状況が変化した、新事態が発生したことを確認した」と定義し、呂叔湘(1999:351)は「事態の変化が出現したことを肯定したか、または、その変化が出現しようとしていることを肯定した」⁸と定義し、張云秋・王賽(2009:123)は「事態の発生が確定した」⁹と定義している。「肯定」義、「決定」義、「確定」義、「確認」義などは発話者の判断、態度、思考様式を反映し、モダリティ性・主観性を反映するため、モダリティ性・主観性を反映する認識域に位置づければ適切であるが、命題性・客観性を反映する行為域に位置づけては不適切である。また、「肯定」義、「決定」義、「確定」義、「確認」義などは対話者の言語行為を直接に反映しないので、言語域に位置づけても不適切である。このように、本論文は先行研究でよく言及される「肯定」義、「決定」義、「確定」義、「確認」義などのモダリティ的意味を“了2<認識>”の意味として位置づける。

もともと「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」などは、“了2”に内包される「定着・定まった」(已成定局)(王力1984:217、1985:230)という抽象な語気を説明するために用いられる意味概念である。先行研究から明らかのように、この「定着・定まった」という語気は「あるようでないような」(空灵的)(王伟2006:83、王洪君他2009:314、夏炎青2017:45)ものであり、具体的に意味化されることは「非常に難しい」(难以确定)(张立昌2014:77-78)。つまり、“了2<認識>”そのものが具体的に意味化されることが難しいということである。そのため、どのような意味概念を用いて“了2<認識>”の意味を記述すればよいのかについては未だに明らかにされていない。例えば、先行研究でよく見られる「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」、「定着・定まった」という用語で“了2<認識>”の意味を記述すると、次のような問題点が生じる。

まず、「肯定」という意味記述の妥当性と実用性を考えよう。“了2”が表す「肯定」的な態度と肯定文が表す「肯定」的な態度がどのように異なるのかという問題において、「肯定」という意味記述は紛らわしい。次の(4)を合わせてこの問題を考えよう。

⁶ 詳細については、刘勋宁(1998:35-48)、刘月华他(2001:379)、吕文华(2010:548-556)などを参照のこと。

⁷ 詳細については、守屋(1995:259)、呂叔湘(1999:351)、吳凌非(2002:23-27)、彭小川・周苒(2005:136-141)、張云秋・王賽(2009:123)、何文彬(2013:10-18)などを参照のこと。

⁸ 原文は、“肯定事态出现了变化或即将出现变化”である。

⁹ 原文は、“确定事态的发生”である。

- (4) a. (预设：留学生曾提意见，说她的语速太快了。) 其实，刚才她的语速很慢了¹⁰。

(彭小川・周芍 2005 : 141)

((前提：留学生たちは、あの方の話し方が速すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅かったんだ。)

- b. (预设：留学生曾提意见，说她的语速太快了。) 其实，刚才她的语速很慢。

((前提：留学生たちは、あの方の話し方が速すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅かったんだ。)

形式的には、“了 2”を持つかどうかという点において (4a) と (4b) は異なるが、意味的には、(4a) も (4b) も、「あの方の話し方が速すぎた」ということを否定し、「さっきあの方の話し方が遅かった」ということを肯定するので、同様の言語的意味¹¹を示す。もし、「肯定」という意味記述で (4a) の“了 2”の意味を解釈すると、『さっきあの方の話し方が遅かった』ということ肯定した」という言語的意味を得るしかない。しかし、このような言語的意味は (4b) の言語的意味と同様であるので、示差的特徴 (distinctive feature)¹²を示さない。つまり、「肯定」という意味記述で (4a) の“了 2”の意味を解釈すると、(4a) と (4b) の意味的相違を説明することはできないということになる。また、(5) - (7) を例にとり、「決定」、「確定」、「確認」、「定着・定まった」などの意味記述の妥当性と実用性も考えよう。

- (5) a. 她一定是王太太了。 (彭小川・周芍 2005 : 138)

(あの方はきっと王さんだ。)

- b. 她一定是王太太。

(あの方はきっと王さんだ。)

- (6) a. 难怪他不去西湖了。 (肖治野・沈家焯 2009 : 522)

(彼が西湖に行かなかったということの背後に潜んでいる事情を確認できた。)

¹⁰ (4a) は、彭小川・周芍 (2005 : 141) の原文“(预设：留学生曾提意见，说她的语速太快了。) 刚才她的语速很慢了”を書き換えたものである。

¹¹ 本論文で述べる言語的意味は、言外の意味・語用論的意味に対する意味である。

¹² ここで松本 (2003b : 19) の説明に基づいて、“man”、“woman”、“boy”、“girl”という 4 つの概念を例にとり「示差的特徴」を説明する。“man”は[+human]、[+male]、[+adult]という意味特徴を示し、“woman”は[+human]、[-male]、[+adult]という意味特徴を示し、“boy”は[+human]、[+male]、[-adult]という意味特徴を示し、“girl”は[+human]、[-male]、[-adult] という意味特徴を示す。「これらの意味特徴は、他の語との意味の区別に貢献しているという点で示差的特徴 (distinctive feature) と呼ばれる」。

b. 难怪他不去西湖。

(彼が西湖に行かなかったということの背後に潜んでいる事情を確認できた。)

(7) a. 马拉多纳可能已经出院了。 (CCL)

(マラドーナさんはたぶん退院しただろう。)

b. 马拉多纳可能已经出院。

(マラドーナさんはたぶん退院しただろう。)

(5) の“一定”というモダリティ的副詞は、もともと「きっと」、「に決まっている」、「決して」などの意味を表すので、「決定」的、「確定」的な意味合いや「定着・定まった」という語気も表す。しかし、「決定」、「確定」、「定着・定まった」という意味記述で (5a) の“了2”の意味を解釈すると、(5a) と (5b) の意味は示差的特徴を示さない。(6) の“难怪”というモダリティ的副詞は、「背後に潜んでいる事情を確認できた」という意味を表すので、「確認」的な意味合いも表す。しかし、「確認」という意味記述で (6a) の“了2”の意味を解釈すると、(6a) と (6b) の意味も示差的特徴を示さない。(7a) の“可能”というモダリティ的副詞は、もともと「たぶん」という意味であるので、「定着してない・定まっていない」という語気を表す。もし、「定着・定まった」という意味記述で (7a) の“了2”の意味を解釈すれば、“可能”(たぶん) との矛盾を引き起こしかねない。

「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」、「定着・定まった」などの意味概念に類似している意味概念、例えば、“保证”(きっと/for sure)、“绝对”(絶対に/absolutely)、“确实”(確かに/indeed)、“真的”(本当に/really)、“毫无疑问”(疑いなく/no doubt)、“当然”(もちろん/of course) などの意味概念の妥当性と実用性も考えよう。

(8) a. A : 你喝了什么?

B : 我喝了这瓶酒了¹³。 (石定栩・胡建华 2006 : 98)

(A : あなたは何を飲んだのか?)

(B : 私はこのお酒を飲んだんだ。)

b. B : 我喝了这瓶酒。

(石定栩・胡建华 2006 : 98)

(B : 私はこのお酒を飲んだんだ。)

c. B : ?我{保证/绝对/确实/真的/毫无疑问/当然}喝了这瓶酒。

(B : ?私は{きっと/絶対に/確かに/本当に/疑いなく/もちろん}このお酒を飲んだんだ。)

¹³ (8a) が示す対話は、石定栩・胡建华 (2006 : 98) の原文“我喝了这瓶酒了”という単文を書き換えたものである。

(8b) は、(8a) の“了2”構文の“了2”を省略した結果である。(8c) は、「定着・定まった」という語気を示す“保证”（きっと），“絶対”（絶対に），“确实”（確かに），“真的”（本当に），“毫无疑问”（疑いなく），“当然”（もちろん）などの意味概念を通して(8a) の“了2”の意味を解釈した結果である。(8b) も(8c) も文法的には適格である。ただし、(8b) の文は(8) が示す発話場面に合うが、(8c) の文は(8) が示す発話場面に合わない。つまり、(8) が示す発話場面では、下線部の“了2”が省略されてもよいが、“保证”（きっと），“絶対”（絶対に），“确实”（確かに），“真的”（本当に），“毫无疑问”（疑いなく），“当然”（もちろん）などの意味概念を通してその“了2”の意味を解釈してはならない。これは、“了2”の「定着・定まった」という抽象的な語気を具体的な意味記述で意味化し難いということも意味し、“了2<認識>”の意味を具体化し難いということも意味する。そのため、劉綺紋(2006:201-202) が指摘するように、“了2”の「定着・定まった」という抽象的な語気は、特別な機能や役割を持たず、「単なる陳述の語気」、つまり平叙文のムードに過ぎないとしばしば誤解される。

劉綺紋(2006:201-244) は Langacker (1987) のスキヤニング説に基づいて、“了2”の「定着・定まった」という語気の形成メカニズム、すなわち本論文で述べる“了2<認識>”の意味の形成メカニズムを次のように説明している。“了2”の「定着・定まった」という語気の形成メカニズムは、人間が「逡巡」という「心的スキヤニング」(mental scanning) の過程を経てから何らかの結果を「再選択」という認知プロセスである。つまり、心理面における複数の「選択肢」からある「選択肢」を選び出した後、それらの「選択肢」に対して「逡巡」してから再び同一の「選択肢」を選び出すということである。この認知プロセスは発話者の「再選択」意識を示す。本論文はこの「再選択」意識に基づいて“了2<認識>”の意味を「再肯定・再否定」(再肯定・再否定/re-affirm・re-negate) 義と規定する。

本論文で規定する「再肯定・再否定」義とは、発話者の思考過程を含意する動態として、発話者はある発話をした後、その発話で肯定・否定されている意味論的内容、統語論的内容、語用論的内容、音韻的内容などの任意のカテゴリーの内容に対して、再び肯定的・否定的な態度を示すという意味である。具体的には、中国語の場合は、ある発話の末尾に添えられる“是的(就是我说的那样)”、“对(就像我说的这样)”、“嗯(就是这样)”、“没错(就是这样)”などの間投詞やフレーズの意味を指す。日本語の場合は、ある発話の末尾に添えられる「はい」、「うん」、「そう(なんだ)」などの間投詞やフレーズの意味を指す。英語の場合は、ある発話の末尾に添えられる“yes/no (just like I said right now)”、“I mean it”などの間投詞やフレーズの意味を指す。

「はい」、「うん」、「そう(なんだ)」などの間投詞やフレーズは文の末尾に添えられると、「自問自答の形で再肯定・再否定する」という意味機能を果たす。そのため、本論文は、

ある肯定文、否定文に含まれる何らかの内容を再肯定・再否定しようとするならば、“了 2<認識>”を用いてよいという“了 2<認識>”の使用条件を主張する。

3. 実例に関する意味解釈

“了 2”構文はどのような場合においても常に「定着・定まった」という語気、つまり本論文で規定する「再肯定・再否定」義を表す。つまり、“了 2”構文は“了 2<行為>”の意味または“了 2<言語>”の意味を表すとしても、“了 2<認識>”の意味を同時に表すということである。この点について、鄧（2019）において具体的に説明されている。「再肯定・再否定」義を分かりやすく説明するために、本節の用例を“了 2<行為>”の意味を表さない用例に絞る。

3.1. 発話時間より早く生じる事象に関する「再肯定・再否定」

発話時間より早く生じる事象は、「発話時間より早く存在している状態」と「発話時間より早く起こった出来事」という2種類に分けられる。次の(9) - (11)の“了 2”構文は、「発話時間より早く存在している状態」を示し、(12) - (14)の“了 2”構文は、「発話時間より早く起こった出来事」を示す。また、(9) - (11)の事象はそれぞれ静態動詞“是”（である）、形容詞“慢”（遅い）、主節の役割を果たす副詞“难怪”（背後に潜んでいる事情を確認できた）が示す状態であり、(12) - (14)の事象はそれぞれ“出（院）”（退（院））、“喝”（飲む）、“看”（読む）という動態動詞が示す出来事である。

(9) a. 她一定是王太太了。 (= (5a))

(あの方はきっと王さんだ。)

b. 她一定不是王太太了。

(あの方はきっと王さんではない。)

(10) a. (预设：留学生曾提意见，说她的语速太快了。) 其实，刚才她的语速很慢了。

(= (4a))

((前提：留学生たちは、あの方の話し方が速すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅かったんだ。)

b. (预设：留学生曾提意见，说她的语速太慢了。) 其实，刚才她的语速不慢了。

((前提：留学生たちは、あの方の話し方が遅すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅くなかったんだ。)

(11) 难怪他不去西湖了。 (= (6a))

(彼が西湖に行かなかったということの背後に潜んでいる事情を確認できた。)

- (12) a. 马拉多纳可能已经出院了。 (= (7a))
 (マラドーナさんはたぶん退院しただろう。)
 b. 马拉多纳可能还没出院了。
 (マラドーナさんはたぶん退院していないだろう。)
- (13) a. A: 你喝了什么?
 B: 我喝了这瓶酒了。 (= (8a))
 (A: あなたは何を飲んだのか?)
 (B: 私はこのお酒を飲んだんだ。)
- b. A: 你喝了这瓶酒吗?
 B: 我还没喝这瓶酒了。
 (A: あなたはこのお酒を飲んだのか?)
 (B: 私はまだこのお酒を飲んでいないんだ。)
- (14) a. 这本书我看了三天了。 (吕叔湘 2002 : 27)
 (この本を私は三日間読んできた。)
 b. 这本书我还没看三天了。
 (この本を私はまだ三日間読んでいない。)

本論文で規定する「再肯定・再否定」義で (9) - (14) の下線部の“了 2”を解釈すると、次の (15) - (20) の [] の内容が得られる。「再肯定・再否定」義で解釈された結果としての (15) - (20) は、(9) - (14) に内包されている「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」、「定着・定まった」などの語気をきちんと伝え、(9) - (14) の意味に相当する。

- (15) a. 她一定是王太太。[嗯 (就是这样)]。
 (あの方はきっと王さんだ。[はい/うん/そうなんだ]。/She must be Mrs. Wang. [I mean it].)
 b. 她一定不是王太太。[没错 (就是这样)]。
 (あの方はきっと王さんではない。[はい/うん/そうなんだ]。/She cannot be Mrs. Wang. [I mean it].)
- (16) a. (预设: 留学生曾提意见, 说她的语速太快了。) 其实, 刚才她的语速很慢。[是的]
 ((前提: 留学生たちは、あの方の話し方が速すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅かった。[はい/うん/そうなんだ]。/Actually, her speech was slow. [Yes/I mean it].)
 b. (预设: 留学生曾提意见, 说她的语速太慢了。) 其实, 刚才她的语速不慢。[是的 (真是那样)]

((前提：留学生たちは、あの方の話し方が遅すぎたと文句を言った。) 実は、さっきあの方の話し方が遅くなかった。[はい/うん/そうなんだ]。/Actually, her speech wasn't slow. [No/I mean it].)

- (17) 难怪他不去西湖。[对 (就是那个原因)]。

(彼が西湖に行かなかったということの背後に潜んでいる事情を確認できた。[はい/うん (その事情なんだね)]。/ I finally figured out why he didn't go to the West Lake. [I mean it].)

- (18) a. 马拉多纳可能已经出院。[是的]。

(マラドーナさんはたぶん退院しただろう。[はい]。/Maradona may be discharged. [I mean it].)

- b. 马拉多纳可能还没出院。[对]。

(マラドーナさんはたぶん退院していませんだろう。[はい]。/ Maradona may not be discharged. [I mean it].)

- (19) a. A：你喝了什么？

B：我喝了这瓶酒。[对 (就像我说的这样)]。

(A：あなたは何を飲んだのか?)

(B：私はこのお酒を飲んだんだ。[はい/うん/そうなんだ]。/ I drank this bottle of wine. [I mean it (just like I said right now)].)

- b. A：你喝了这瓶酒吗？

B：我还没喝这瓶酒。[对 (就像我说的这样)]。

(A：あなたはこのお酒を飲んだのか?)

(B：私はまだこのお酒を飲んでいないんだ。[はい/うん/そうなんだ]。/No, I haven't drunk it. [No/I mean it].)

- (20) a. 这本书我看了三天。[是的]。

(この本を私は三日間読んできた。[はい/うん]。/I've read this book for three days. [Yes/I mean it].)

- b. 这本书我还没看三天。[对]。

(この本を私はまだ三日間読んでいない。[はい/うん]。/ I haven't read this book for three days. [No/I mean it].)

ところで、(9) - (14) の“了2”は具体的にどのようなカテゴリーの内容を「再肯定・再否定」、「再選択」するのかについて、(15) - (20) の[]からは判断し難い。具体的な発話場面を合わせなければ判断できないからである。例えば、まず、(13a)を考えよう。(13a)には、“我喝了这瓶酒了”(私はこのお酒を飲んだんだ)という“了2”構文も含まれ、“你喝

了什么?”(あなたは何を飲んだのか?)という疑問文も含まれる。つまり、(13a)は、“我喝了这瓶酒了”という“了2”構文に具体的な発話場面を提供している。“你喝了什么?”(あなたは何を飲んだのか?)という情報から分かるように、“我喝了这瓶酒了”の“了2”が「再肯定」、「再選択」するのは“这瓶酒”(このお酒)という命題的意味である。そのため、(13a)の“我喝了这瓶酒了”という“了2”構文をより具体的に解釈すれば、次の(21)に再解釈しても構わない。(21)の二重下線の内容は“我喝了这瓶酒了”の“我喝了这瓶酒”という部分の意味に相当し、(21)の下線の内容は“我喝了这瓶酒了”の“了2”の意味に相当する。

- (21) 何を飲んだのかという命題的内容を聞かれると、私は「このお酒」という命題的内容を「肯定」、「選択」する。 はい、「このお酒」という命題的内容を「肯定」、「選択」する。

次に、(14a)も考えよう。(14a)には、“这本书我看了三天了”(この本を私は三日間読んできた)という“了2”構文だけが含まれる。つまり、(14a)は、“这本书我看了三天了”(この本を私は三日間読んできた)という“了2”構文に具体的な発話場面を提供していない。そのため、(14a)の“了2”が「再肯定」、「再選択」する内容は何か、あるいは(20a)の[是的](はい)が「再肯定」、「再選択」する内容は何かについては判断できない。次の(22)と(23)は、“这本书我看了三天了”(この本を私は三日間読んできた)という“了2”構文にそれぞれ異なる発話場面を提供している。(22)と(23)から、それぞれの“了2”が「再肯定」、「再選択」する内容を特定できる。また、それぞれの“了2”が「再肯定」、「再選択」する内容は異なるカテゴリーの内容である。

- (22) A: 这本书老子看了三天。
B: 这本书我看了三天了。“我”了!怎么能用“老子”这么粗鲁的措辞呢!
(A: この本を俺は三日間読んできた。)
(B: この本を私は三日間読んできたと言うべきだよ。「私」だよ!「俺」なんて乱暴な言葉遣いを使うな!)
- (23) A: 这本书我看(kang)了三天。
B: 你的发音怎么那么奇怪?这本书我看(kan)了三天了。“看(kan)”了!不是“看(kang)”。
(A: この本を私は三日間読んで(yonte)きた。)
(B: あの発音はおかしくない?この本を私は三日間読んで(yonde)きたと言うべきだよ。「読んで(yonde)」だよ!「読んで(yonte)」じゃないよ。)

“老子”(俺)と“我”(私)は同様に「第一人称」という命題的意味を表すにもかかわら

ず、(22) では、“这本书我看了三天了”の“了2”は「第一人称」という命題的意味を「再肯定」、「再選択」するのではなく、“我”（私）という言葉遣いの適切性を「再肯定」、「再選択」するのである。つまり、語用論的内容を「再肯定」、「再選択」するのである。そのため、(22) における“这本书我看了三天了”という“了2”構文をより具体的に解釈すれば、次の(24) に再解釈しても構わない。(24) の二重下線の内容は“这本书我看了三天了”の“这本书我看了三天”という部分の意味に相当し、(24) の下線の内容は“这本书我看了三天了”の“了2”の意味に相当する¹⁴。

(24) 「この本を私は三日間読んできた」という発話が生じたとおりに、「私」という言葉遣いを「肯定」、「選択」する。はい、「私」という言葉遣いを「肯定」、「選択」する。

(23) では、Bさんは“看”（読んで）という言葉の命題的内容を「再肯定」、「再選択」するのではなく、“看”（読んで）という言葉の発音である“kan”（yonde）を「再肯定」、「再選択」するのである。つまり、特定の音韻的要素を「再肯定」、「再選択」するのである。そのため、(23) の“这本书我看了三天了”という“了2”構文をより具体的に解釈すれば、次の(25) に再解釈しても構わない。(25) の二重下線の内容は“这本书我看了三天了”の“这本书我看了三天”という部分の意味に相当し、(25) の下線の内容は“这本书我看了三天了”の“了2”の意味に相当する。

(25) 「この本を私は三日間読んで（yonde）きた」という発話が生じたとおりに、私は「読んで（yonde）」という発音を「肯定」、「選択」する。はい、「読んで（yonde）」という発音を「肯定」、「選択」する。

このように、(13a)、(22)、(23) の“了2”構文において、“了2”によって「定まった」要素はそれぞれ意味論的要素、語用論的要素、音韻的要素であるということが分かる。

3.2. 発話時間より遅く生じる事象に関する「再肯定・再否定」

“了2<認識>”によって「再肯定・再否定」される、発話時間より遅く生じる事象は、しばしば決断した事象、決意した事象、予定している事象、計画中の事象、見込みのある事象などである。例えば、次の(26) - (28) が示す事象は決断、決意などであり、(29) が示す事象は予定、計画、見込みなどである。

¹⁴ 文脈によって、“这本书我看了三天了”の“了2”は「変化」義を表す“了2<行為>”として扱われる場合もある。“了2<行為>”の意味については、鄧 (2020) を参照のこと。

- (26) 走了, 走了, 不能再等了。 (张伯江 2018 : 38)
(行くぞ。行くぞ。もう待てないから。)
- (27) 算了, 不买了。 (BCC)
(もういい。買わないことにした。)
- (28) 就这样了! (肖治野・沈家煊 2009 : 521)
(そのままにしましょう!)
- (29) 明天我就调走了。 (CCL)
(明日私は転勤するよ。)

本論文で規定する「再肯定・再否定」義で (26) - (29) の下線の“了”を解釈すると、次の (30) - (33) の [] の内容が得られる。

- (30) 走。[对]。走。
(行く。[はい/うん/そう]。行く。/Go. [Yes/I mean it]. Go.)
- (31) 不买。[是的]。
(買わない。[はい/うん]。/I won't buy it. [No/I mean it].)
- (32) 就这样。[是的]!
(そのまま。[うん]!/Let it be. [Yes/I mean it].)
- (33) 就这样。[是的]!
(明日私は転勤する。[はい]。/I'll be transferred tomorrow. [Yes/I mean it].)

「再肯定・再否定」義で解釈された結果としての (30) - (33) は、(26) - (29) に内包されている「肯定」、「決定」、「確定」、「確認」、「定着・定まった」などの語気をきちんと伝え、(30) - (33) の意味は (26) - (29) の意味に相当する。

4. 終わりに

以上、本論文は劉綺紋 (2006 : 201-244) による「再選択」意識を踏まえて、「再肯定・再否定」という意味記述を提起して“了 2<認識>”の意味を精緻化した。ところで、先行研究でよく見られる「肯定・決定・確定・確認」義と本論文で規定した「再肯定・再否定」義の最も大きな相違点は、発話者の同一の態度の繰り返しという操作によって表されるかどうかということにある。本論文で規定した「再肯定・再否定」義は発話者の同一の態度の繰り返しという操作によって表される意味である。そのため、「再肯定・再否定」義は劉綺紋 (2006 : 201-244) が述べている“了 2”の「再選択」意識をきちんと反映する。“了 2”の「再選択」意識をきちんと反映するので、「再肯定・再否定」義を用いて“了 2<認識>”

構文を解釈した結果は、解釈しないままの“了 2<認識>”構文の意味と内省的に一致する¹⁵。このように、「再肯定・再否定」義の提起が非中国語母語話者の“了 2<認識>”の習得や使用に大きく役立つと考えられる。

参考文献

- Chao, Yuenren (1948) *Mandarin Primer: An Intensive Course in Spoken Chinese*. Harvard University Press.[李荣 (訳) (1952) 《北京口语语法》开明书店.]
- Chao, Yuenren (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.[吕叔湘 (訳) (1979) 《汉语口语语法》商务印书馆.]
- 陈前瑞・胡亚 (2016) 〈词尾和句尾“了”的多功能模式〉《语言教学与研究》4, pp.66-74.
- 陈前瑞・吴继章 (2019) 〈从方言语音看“了”的功能演化〉《汉语学报》2, pp.48-60.
- 鄧宇陽 (2019) 「“了 2”の意味の種類と意味間の関係」『現代社会文化研究』69, pp.117-133.
- 鄧宇陽 (2020) 「現代中国語の文末助詞“了”の研究—行為域における文末助詞“了”の意味の形成メカニズムに関する検証—」『言語の普遍性と個別性』11, pp.63-90.
- 郭穎侠 (2003) 「“是...的”構文の焦点と時制の問題」『現代社会文化研究』27, pp.215-232.
- 何文彬 (2013) 〈论语气助词“了”的主观性〉《语言研究》1, pp.10-18.
- 黄瓚辉 (2016) 〈“了 2”对事件的存在量化及标记事件焦点的功能〉《世界汉语教学》1, pp.42-58.
- 金立鑫・邵菁 (2010) 〈Charles N. Li 等“论汉语完成体标记词“了”的语用驱动因素”中某些观点商榷〉《当代语言学》4, pp.319-325.
- 竟成 (1993) 〈关于动态助词“了”的语法意义问题〉《语文研究》1, pp.52-57.
- Langacker, Ronald (1987) *Foundations of Cognitive Grammar*. Stanford University Press.
- Langacker, Ronald (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford University Press.[山梨正明 (監訳) (2012) 『認知文法論序説』研究社.]
- 劉綺紋 (2006) 『中国語のアスペクトとモダリティ』大阪大学出版会.
- 刘勛宁 (1998) 《现代汉语语言研究》北京语言文化大学出版社.
- 刘娅琼 (2016) 〈现场讲解中用于交互的句尾“了”〉《中国语文》6, pp.665-677.
- 刘月华・潘文娛・故韡 (2001) 《实用现代汉语语法》商务印书馆.
- 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词 (增订本)》商务印书馆.
- 吕叔湘 (2002) 《吕叔湘语文论集 (第7卷)》辽宁教育出版社.
- 吕文华 (2010) 〈“了”的教学三题〉《世界汉语教学》4, pp.548-556.

¹⁵ 『再肯定・再否定』義を用いて“了 2<認識>”構文を解釈した結果は、解釈しないままの“了 2<認識>”構文の意味と内省的に一致する」という判断は、形式的証拠によらず、内省 (introspection)、つまり認知言語学において重視される個人の意識体験による。生成文法と同様に、認知意味論の研究方法にも「内省」がある (松本 2003a : 11)。例えば、ある言語形式に対してどのような心理的感覚を表すのかという問題を明らかにするためには、個人の意識体験を追究しなければならない。

- 松本曜 (2003a) 「認知意味論とは何か」松本曜 (編) 『認知意味論』, pp.3-16, 大修館書店.
- 松本曜 (2003b) 「語の意味」松本曜 (編) 『認知意味論』, pp.17-72, 大修館書店.
- 初山洋介・深田智 (2003) 「多義性」松本曜 (編) 『認知意味論』, pp.135-186, 大修館書店.
- 守屋宏則 (1995) 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店.
- 彭小川・周芍 (2005) 〈也谈“了2”的语法意义〉《学术交流》1, pp.136-141.
- 饶宏泉 (2018) 〈从篇章时间推进看句末“了”的时体属性〉《汉语学习》3, pp.74-82.
- 沈家煊 (2003) 〈复句三域“行、知、言”〉《中国语文》3, pp.195-204.
- 石定栩・胡建华 (2006) 〈“了2”的句法语义地位〉《语法研究和探索》13, pp.94-112.
- 杉村博文 (2009) 〈事件脚本和“了2”的用法表述〉《对外汉语研究》1, pp.1-12.
- Sweetser, Eve (1990) *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantics Structure*. Cambridge University Press.
- 譚春健 (2004) 〈句尾“了”构成的句式、语义及语用功能〉《汉语学习》2, pp.26-31.
- 王洪君・李榕・乐耀 (2009) 〈“了2”与话主显身的主观近距交互式语体〉北京大学汉语语言学研究中心 (編) 《语言学论丛 (第40辑)》, pp.312-333, 商务印书馆.
- 王力 (1984) 《中国语法理论》山东教育出版社.
- 王力 (1985) 《中国现代语法》山东教育出版社.
- 王学群 (2003) 〈說“了”〉『語学教育研究論叢』20, pp.51-71.
- 王学群 (2008) 〈試論“了”的共性語法義和語气性〉『語学教育研究論叢』25, pp.75-90.
- 王伟 (2006) 《现代汉语“了”的句法语义定位》中国社会科学院研究生院博士学位論文.
- 王巍 (2010) 《语气词“了”的隐现规律研究》吉林大学博士学位論文.
- 吴凌非 (2002) 〈论“了1”和“了2”〉《语言研究》1, pp.23-27.
- 夏炎青 (2017) 《现代汉语句末助词“了”的句法语义属性及其对语序的影响》上海外国语大学博士学位論文.
- 肖治野・沈家煊 (2009) 〈“了2”的行、知、言三域〉《中国语文》6, pp.518-527.
- 张伯江 (2018) 《什么是句法学》上海外语教育出版社.
- 张立昌 (2014) 《汉语完整体“了”结构的时体合成模型》上海復旦大学博士学位論文.
- 張文青 (2012) 「“了”の教授法に関する試み」『ポリグロシア』22, pp.105-122.
- 张云秋・王赛 (2009) 〈汉语早期儿童时间意识的开始——“了”的习得意味着什么?〉《首都师范大学学报》1, pp.119-124.
- 赵立江 (1997) 〈留学生“了”的习得过程考察与分析〉《语言教学与研究》2, pp.112-124.
- 周小兵・欧阳丹 (2014) 〈日本学习者句末助词“了2”的习得情况考察〉《华文教学与研究》4, pp.8-15.
- 朱德熙 (2016) 《语法讲义》商务印书馆.